

災害ボランティアの報告

南三陸町、女川町、石巻市に行ってきました。

10月5日（金）の夜22：00に安房教育会館を出発し、6日（土）に南三陸町でボランティア活動に参加しました。その後、南三陸防災センターに向かい、献花をしてきました。翌日、7日（日）には大川小学校に行き、献花をしたあと、女川町と石巻市の門脇小学校を視察してきました。

震災から1年半が経過し、徐々に震災の報道が無くなる中、まだまだ復興の道のりは長いことを肌で感じることができました。瓦礫は山のように積みれ、津波でぼろぼろになった家屋はそのまま放置されているところもまだまだあります。港は地盤沈下の影響で、海に沈んでいるところも多々ありました。そのような状況の中でも、仮設の店舗を構え、飲食店や理髪店、雑貨屋などを再開し、力強く一步を踏み出している被災者の皆さんの姿を見て、胸が熱くなりました。特に、感動したのは、1日しかボランティア活動ができなかった私たちに対して「こんにちは」「ありがとうございます」と笑顔で声をかけてくれた高校生や地域の方々の感謝の心を受け取った時です。「絆」とはよく使う言葉ですが、本当のつながりを感じることができました。

また、自分自身の考え方を反省させられる出来事もありました。それは、現地の様子を写真に収めようとカメラを向けた時、現地のボランティアスタッフから「原則、撮影は禁止です」と言われたことです。初めは「なぜだろう？」と考えてしまいましたが、「震災で被害にあわれた方々の感情を考慮してください。特に現場が特定できるような写真は撮らないでください。」と言われ、確かに自分が震災で家や家族を亡くしたら、第三者に勝手に写真を撮られたらどんなに嫌な気分になるだろう。それが観光気分で撮っている写真だったらどんなに心を痛めるだろうと考えさせられました。

しかし、私たちの今回の目的は、現場の状況を安房の教職員や子どもたちに伝えることです。そして、多くの人にさらなる支援の輪を広めていくことです。そう考え、被災された方々の感情を害さないように細心の注意を払いながら撮影してきました。

この報告を通して、より多くの方々に現在の状況をお伝えすることができればと思っています。また、今回の災害ボランティアに参加して下さった19名の先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。



災害ボランティアに参加された先生方。19名で行ってきました。



南三陸防災センター（上段）と大川小学校（下段）で献花をしました。



5時間後



before → after



溝が埋まってしまいました。少しの雨でもあふれてしまいます。水路の開通を目指してひたすら掘りました。

側溝を掘る作業。瓦礫の中から出てくる物を見て津波はしまったことを痛感しました。



震災瓦礫は、まだまだ山のように積まれています。津波で流された車、漁具、木片、生活用品・・・

元の街並みに戻るには、まだまだ時間がかかりそうです・・・。



津波の被害のあったところは基礎だけ残して、何もなくなってしまう状態でした。対照的に高台はきれいな状態でした。



海や川沿いは地盤沈下のため、土嚢を積まないで浸水してしまう状態でした。



女川町には横倒しになった家屋がそのまま残されていました。津波の力と恐ろしさが伝わってきました。



この高台の上まで津波が到達しました。信じられない高さの津波だったことがわかります。



震災によって、住む場所も、働く場所も、思い出も、あるいは家族の命も、全てを失った方々の絶望と深い悲しみが痛いほど感じられました。しかし、そのような状況の中でも、勇気の出る言葉をかけあい、仮設店舗を立てて、一步ずつ前へ進みだしている被災者の皆さんのパワーにも感動しました。

今後も復興に向けた支援を安房支部として考えていきたいと思ひます。がんばろう！東北！！